

「丹沢ヴァリエーション」(第1回大室山、第2回檜岳)

中道

標識の行きとどいた表丹沢でなく、標識もなく知る人ぞ知る踏み跡を辿る裏丹沢と北丹沢のヴァリエーション山行が杉本忠副代表により企画された。2月から毎月1回ペースで11回続く。近くに住みながら丹沢をほとんど歩いたことなく、11コースの固有名詞のほとんどに馴染みがない私にはまことに有り難く、うれしく参加した。

第1回 大室山

平成25年2月11日(月、祭日) 晴れ、午後から曇り

参加者 杉本(リーダー)、赤澤、中道の計3名

京王相模原線橋本駅に集合し、8:00 発三ヶ木行のバスに乗る。バスを降りると、リーダー予約のタクシーがすぐ来た。小瀬戸トンネルを抜けた登山口まで1人2200円、復路は神ノ川ヒュッテから2300円。このタクシー利用は、朝夕各1便しかないバス利用に比べ行動の自由度を格段に高めた。

9:20(461m、GPS標高、以下同じ)、もう少し下流にもう一つあるが、鐘撞山へ最短となる登山口を発つ。すぐ間伐、枝打ちされた檜の人工林に入り、あまり歩かれていない道を檜の葉を踏みながらジグザグに登る。雪は無い。

9:59(726) 休憩し、ここから直登すると、尾根筋の道と合し、

10:28(900) 鐘撞山に着く。名を負うように鐘を掲げられており、これを撞きながら大室山を望む。



雪の上のハイキングシューズの踏み跡を辿り、ハイキングシューズが消えた(多分下山した)後はリーダーが巧みにルートを選び、蛭ヶ岳方面の展望を愉しみながら登る。

リーダーが次々に山名、尾根名、谷名を指してくれるが、私には山名が少し分かる程度である。



11:43(1147) 主稜線と合する。ここから降雪後ツボ足で巧みにルートを探った深い踏み跡を辿り、楽をする。標高を 200m 弱稼いだところで下山者に会う。私たちと逆コースをありており、犬越路からの降り路は凍っているとのこと。

鹿柵を左に避け、久保吊橋方面からの踏まれた道(第 6 回に歩く)と合して

13:39 大室山(1567)に着く。頂上には西丹沢から往復の単独行者が休んでいる。

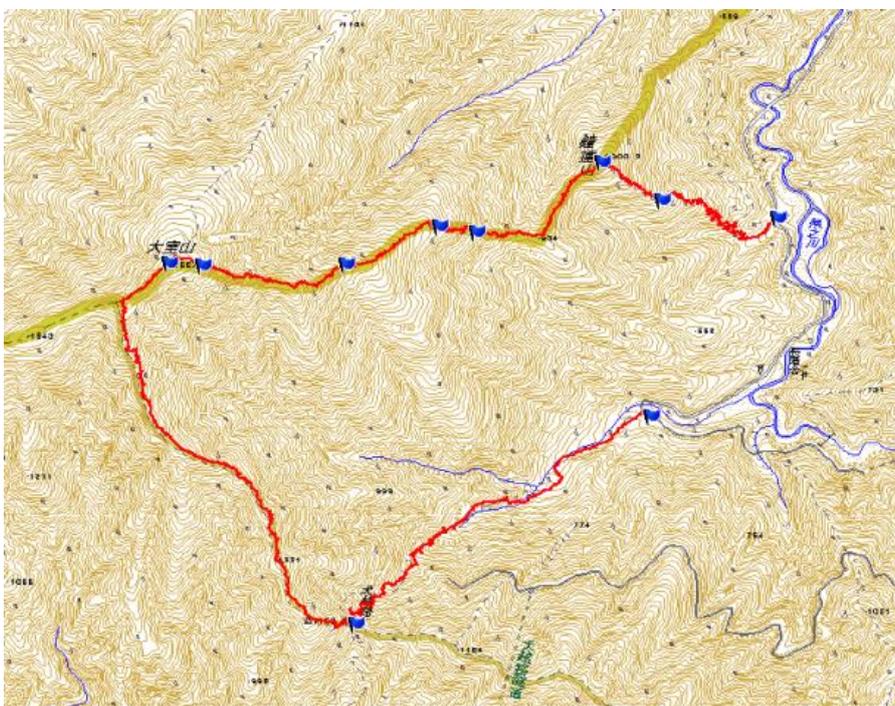
雲が低く覆い、展望は利かない。食事を摂りながら 20 分ほど休む。



ここからは良く踏まれている。アイゼンを着け、泥道が時々現れる道をひたすら降り、
15:18(1058)犬越路。ここは2年前檜洞丸のつづじを觀に来て寄っている。携帯電話がやっとつながり、
予定の16時に少し遅れる旨、タクシー会社にリーダーが伝える。

しばらくの間雪が十分につき、またガレ場に丁寧に道がつけられており、歩き易い。砂防工事現場から広い道を下り

16:28(539) 神ノ川ヒュッテ下で、迎えのタクシーに乗る。車中から大室山を振り返り、70歳を超える3人には格好のハイキングであったに満足し、杉本さんの企画に感謝する。



第2回 檜岳(ヒノキダッカ)

平成 25 年 3 月 20 日(水、祭) 曇り、時々晴れ、午後少し風

参加者 杉本(リーダー)、中道の計 2 名

前日の予報では 9 時晴れ以外は終日曇り。新松田駅に集合し、寄(ヤドリギ)行のバスに乗るころは予報通り晴れている。

8:49(GPS 標高 314m、以下、同じ) 満開の河津桜のもと堤防上の立派な道路を歩き出す。リーダーは軽快、私は遅い。これは一日続いた。



9:22(427) 寄大橋。しばらく立派な道路を歩き、

9:40(503) 登山道に入る。間もなく貸切バスで来た 20 余名のツアーを追い越す。同じコースを歩くとのこと。崩壊が進行する溪筋の登山路がよく整備されているのに感心する。

リーダーは地質と植物にも詳しく、丹沢山魂の成り立ちや側の岩石名を、また満開の馬酔木やミツマタを教えていただく。

10:39(758) 釜場平。

鍋割山の下山路の河原に降りたところで、雨山峠への道を探る。ここからは私には初めての道である。源頭近くの迷いやすい沢の分岐には鎖の進入止めがあり。



11:34(972) 雨山峠に着く。昔からの要路であり、風があり、汗ばんだ体が冷える。

昼食を摂り、ところどころ狭い縦走路を辿り、

12:21(1176) 雨山に着く。残念ながら視界は利かない。

ここから相当に降り、登り返し、1145 のピークを知らぬ間に通過し、

12:56(1166.6) 檜岳。ここも視界は利かないが、名に負う天然の檜が多い。



少し降り平らになったところ(1152)で作業道への踏み跡を辿る。分岐に立つダケカンバの木肌に「寄大橋 ショートカット」の書き込みがある。



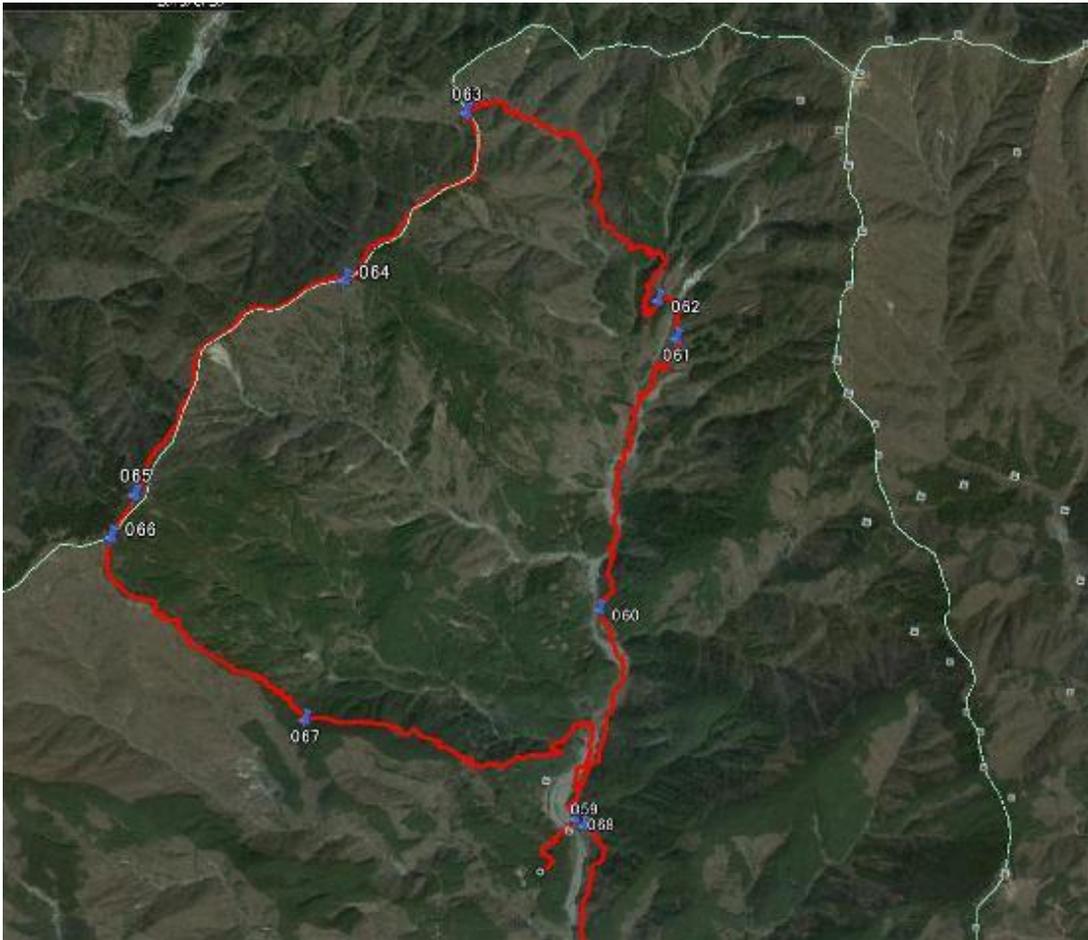
作業道が活用され、檜の人工林が見事に整備されている。作業道はこの人工林とその右の天然林の境（おおむね尾根筋）にあり、雨山峠までの道より格段に歩き易い。間伐されて陽が射すようになり、ミツマタが満開である。



13:46(754)分岐。右に降りると林道に近いとのことであるが、もう少し降りてから林道に出ることとし左に採る。次に右に林道に降る道を見落とし、複層林を育てているやどりぎ水源林周遊歩道に合するまで降りてしまう。ここで右道を探ればすぐ林道だったのであるが、左に採り、遠回りとなった。途中の作業道から河原へ降り、流れを渡り、集会棟で往路に合し、

14:41 寄大橋に戻る。念のため、大橋を渡って本来の下山口を確認し、寄に戻り、バスで新松田へ。

心配した雨もなく、時々薄日も射し、快適な山歩きを愉しんだ。



緑色が人工林、こげ茶色が天然林。檜岳からの下山にはこの境界の作業道である。

